

TF2 Bike Fitting Tool Setback

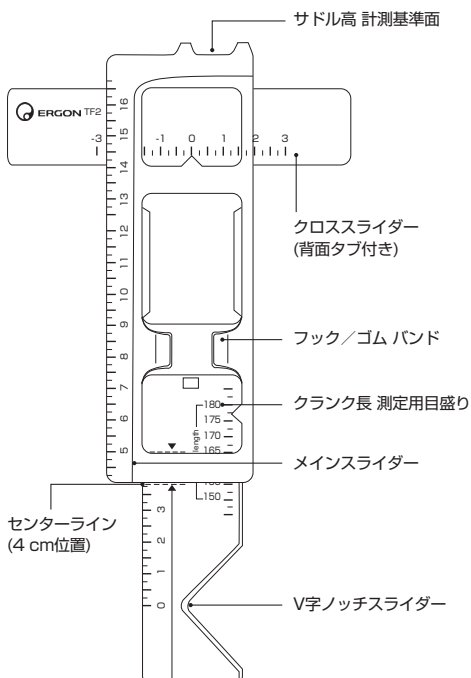
取扱説明書

▲ 重要事項

ご使用になる前に、適切な使用と安全のため、
必ず本取扱説明書をご覧ください。

TF2 バイクフィッティング ツール セットバックの上に座らないでください。本取扱説明書に従わない不適切な使用はバイクやパーツを破損させたり、ケガを負ったりする恐れがあります。いかなる理由があっても、絶対に改造しないでください。改造、およびこの取扱説明書に従わない本来の用途以外のご使用による故障は保証を受けられません。本取扱説明書は大切に保管してください。

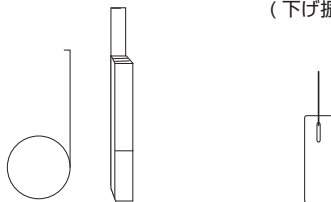
各部の説明



使用するツール

メジャーまたは折りたたみ定規

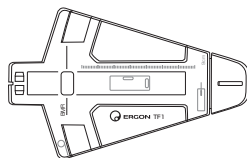
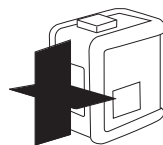
錘付き糸
(下げ振り)



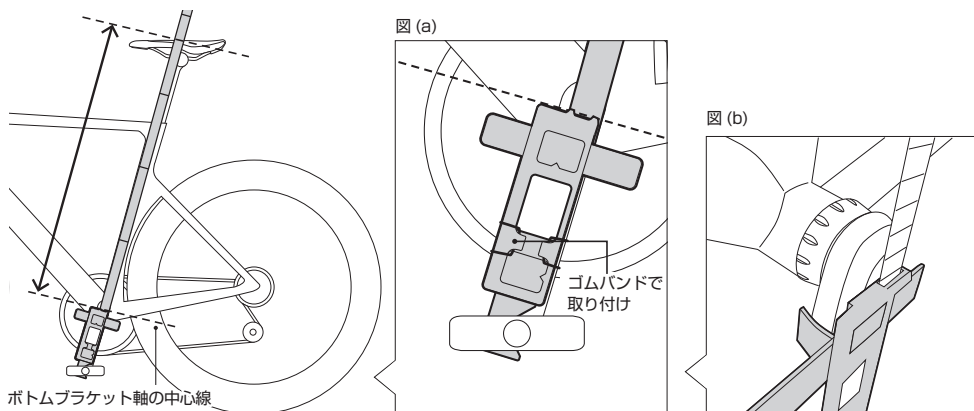
あると便利なオプションツール

ラインレーザー
(錘付き糸
(下げ振り)の代用)

TF1 バイク フィットting
ツール サドル

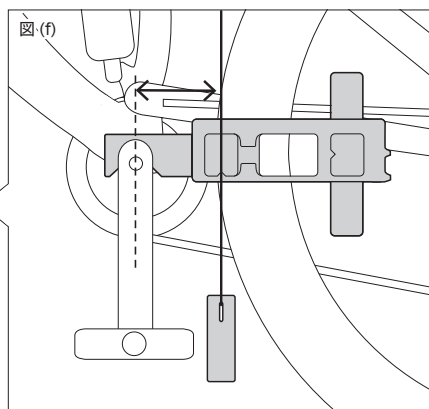
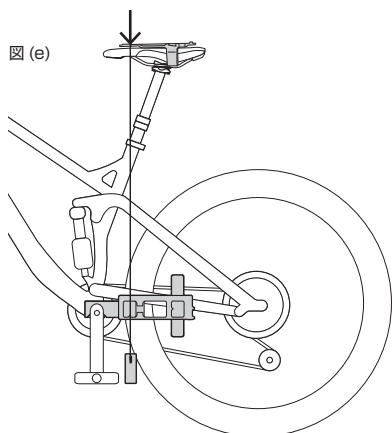
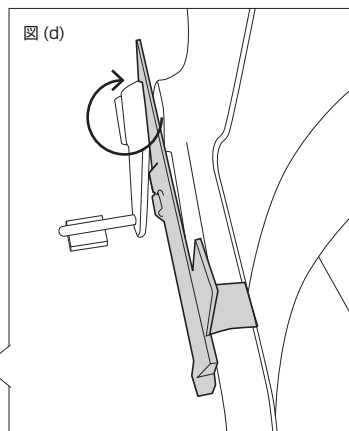
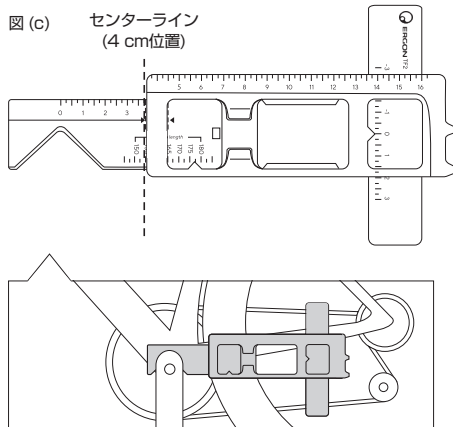


1. サドル高の測定



- クランク長を確認します。通常、クランクアーム内側のペダル取り付け軸の近くに記載があります。記載が無い場合は本製品を使用して測定します。V字ノッチスライダーをペダル軸に当て、メインスライダーの上端がボトムブラケット軸の中心に来るように動かします。クランク長測定用目盛りの矢印の位置にくる数値でクランク長を確認します。
- 図 (a) のようにゴムバンドを左クランクに巻き、フックに固定します。シートチューブの延長線に沿って下向きになるように位置を合わせます。クロスライダーをクランクに当てます。V字ノッチスライダーがペダル軸に固定され、サドル高 計測基準面がボトムブラケット軸の中心に来ていることを確認してください。
- 図 (b) のようにメジャーまたは折りたたみ定規を TF2 上部のサドル高 計測基準面に差し込みサドル上端までを測定します。簡単かつ正確に測定するには、別売の「TF1 バイク フィットting ツール サドル」(以下、TF1)の併用を推奨します。
- サドルやその他のパーツを交換する場合は、記録した測定値と比較し再現、または必要に応じて再調整します。
別売の「フィットting ボックス」を併用することで、さらに最適なフィットting方法と参考値を確認できます。

2. サドル前後位置（セットバック）の測定



1. TF2のメインスライダーとV字ノッチスライダーを調整し、図 (c) のようにセンターライン(4cm 位置) に合わせます。
2. 図 (d) のようにV字ノッチスライダーがボトムブラケット軸の中心に来るように、TF2をクランク上に置きます。次にクロススライダー背面のタブをチェーンステア上に置きます。クロススライダーを調整してTF2を水平にします。V字ノッチスライダーがボトムブラケット軸の中心に正しくセットされていることを確認し、左クランクアームを上向きに回してTF2を固定します。
3. 別売のTF1を併用し、図 (e) のように錘付き糸(下げ振り)をTF1前面の切り込みに巻き付けて固定します。(推奨)
TF1を併用しない場合は、錘付き糸(下げ振り)をサドル先端に合わせ、ボトムブラケット軸からサドル先端までの水平距離を測定します。
4. TF1をサドル上に置き、両側のBMRバーがサドルの縁に接触するまで差し込みます。
5. 錘付き糸(下げ振り)が自然に揺れる状態にします。垂直に垂れ下り、フレームやパーツに干渉していないことを確認してください。
完全に揺れが止まるまで待ちます。ラインレーザーを使用する場合は、TF1前側の切り込みにレーザーを合わせてください。※ラインレーザーの光源を直視しないでください。
6. 図 (f) のように測定目盛りで、クランク軸の中心から錘付き糸(下げ振り)までの距離を読み取ります。
7. サドルを交換する場合は、交換前のサドルと同じ前後位置になるように合わせます。別売の「フィッティングボックス」を併用することで、さらに最適なフィッティング方法と参考値を確認できます。

3. ステム長の測定

図 (g)

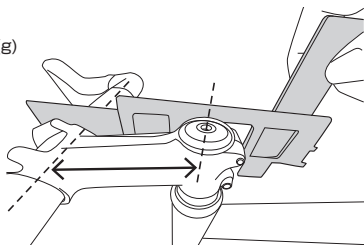
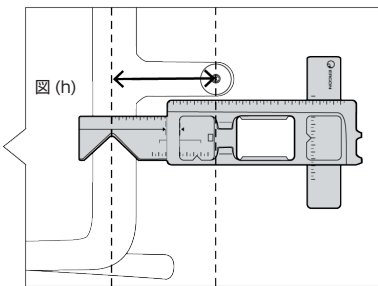


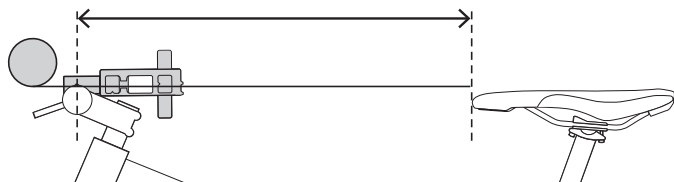
図 (h)



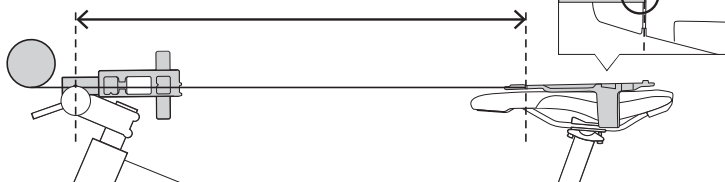
1. 手順 2.1 と同様にツールを調整します。
2. 図 (g) のように TF2 をハンドルバーに置きます。V 字ノッチスライダーがハンドルバーの中心に来るように置き、ステムと平行になっていることを確認してください。幅の広いエアロハンドルバーなどの場合は、図 (h) のように TF2 をハンドルバー上に置きます。V 字ノッチスライダーの基準点は、ハンドルバーの中心です。
3. 目盛りでステム長を確認してください。測定位置は、ハンドルバーの中心からフォークコラムの中心、またはステムキャップボルトの中心です。

4. サドルとハンドルの距離の測定

TF2 のみを使用した場合の 測定方法



TF1 を併用した場合の 測定方法



1. TF2 のみを使用する場合、サドルとハンドルの距離は、サドル先端からハンドルバー中心までを測定します。TF2 を使用して、ハンドルバーの中心を特定し、V 字ノッチの中央までを測定してください。
TF1 を併用することで、サドルの長さ違いによる測定誤差を低減し、サドルの測定位置をより正確に特定できます。
手順 2. 4 と同様に TF1 をサドルに差し込みます。両側の BMR バーがサドルの縁に接触していることを確認してください。
2. TF1 を併用する場合、ハンドルバーの中心から TF1 前面の切り込みまでを測定してください。測定距離はサドル先端から測定した場合より長くなります。
3. 必要に応じて、ハンドルとサドルの距離を調整してください。サドルを前後に動かして調整する場合は、サドル前後位置も変化するので注意してください。ステム長を変更してハンドルとサドルの距離を調整することもできます。別売の「フィッティング ボックス」を併用することで、さらに最適なフィッティング方法と参考値を確認できます。

保証期間：

ご購入日から 2 年間：製造上の欠陥による機械部品の不良が対象です。

保証を受けるには、ご購入日の日付の入った領収書が必要です。領収書なしで保証を受ける場合の保証期間は製造年月日から起算させていただきます。お客様の事故などによる外的要因、誤使用、改造、およびごの取扱説明書に従わない本来の用途以外のご使用による故障は保証を受けられません。故障した製品は故障状況を明記して、お買上げの販売店へお持ちください。お送りになる場合の送料はお客様にてご負担をお願いします。